

## 1. 授業の概要(ねらい)

異文化理解・国際理解・多文化共生・日本語教育などをキーワードに、様々な異質な人々がともに暮らす社会を構成するうえで、支援を必要としている人々に対して何ができるのかを、社会全体・地域・個人の立場から考えていく。それぞれの興味のあるテーマを絞り込み、実際に学内・学外において自分とは立場の違う人々に対する触れ合って、理解を深め、支援を行う体験する機会を持ち、その経験から学びを深める。並行して学術的な論文・レポートの書き方を段階的に学ぶ。

## 2. 授業の到達目標

- (1) 多文化共生社会の実現のために必要なことについてのイメージを身につける。
- (2) 多文化共生社会の中で支援を必要としている人立ちに対して、自分は何ができるか具体的に考えられるようになる。
- (3) 学内外において自分とは違う立場の人たちと交流し、支援活動を行う。
- (4) 学術的な論文・レポートの書き方の基本を身につける。

## 3. 成績評価の方法および基準

- (1) 平常点(課題への取り組み、発表、支援の実践活動) 50%
  - (2) 支援の実践報告、最終レポート 50%
- \*正当な理由なく5回以上欠席した学生には、単位を与えられません\*

## 4. 教科書・参考文献

教科書

特に指定ない。適宜、参考文献を配布。

## 5. 準備学修の内容

このクラスは、主体的・自律的に、上記のキーワードに対して問題・課題を見つけ、資料を正確に読んで分析し、課題解決していく姿勢が求められます。発表の準備やレポート作成、各自の支援活動など授業外の時間での学習も必要とされ、自律的に学習を進めていく態度が重要となります。

## 6. その他履修上の注意事項

- (1) 各自、真摯な態度で授業や課題にのぞみましょう。
- (2) 遅刻、早退、欠席は避けましょう。
- (3) 第1回目の授業には、必ず出席してください。
- (4) 大学での学びは、教員から一方的に与えられるものではありません。一人一人が他者に配慮をしながら、積極的に授業に参加することでよいクラスになり、みなさんの学びと成長につながります。

## 7. 授業内容

- |        |                          |
|--------|--------------------------|
| 【第1回】  | オリエンテーション                |
| 【第2回】  | 日本語教育の概要                 |
| 【第3回】  | 多文化共生社会に関するキーワード         |
| 【第4回】  | 多文化共生社会における支援事例1 文部科学省   |
| 【第5回】  | 多文化共生社会における支援事例2 虹の架け橋事業 |
| 【第6回】  | 多文化共生社会における支援事例3 集住地域    |
| 【第7回】  | 各自の支援実践のテーマ決定            |
| 【第8回】  | 論文の書き方1(課題設定・研究の目的)      |
| 【第9回】  | 論文の書き方2(調査項目と調査方法)       |
| 【第10回】 | 論文の書き方3(文献調査・引用・参考文献)    |
| 【第11回】 | 論文の書き方4(結論・考察)           |
| 【第12回】 | 支援実践報告1 子ども              |
| 【第13回】 | 支援実践報告2 留学生              |
| 【第14回】 | 支援実践報告3 園児               |
| 【第15回】 | 最終レポートの発表                |